

2026年 盂蘭盆会(お盆法要)

日時

7月12日(日) 10:00~11:40

8月 9日(日) 10:00~11:40

場所

誓願寺



どなたでも
ご自由にお参りください



しんらん同人

No.593

7・8

月号

お知らせ

長年にわたり誓願寺門徒総代を務めて下さった近藤敬様が令和六年八月にお亡くなりになって二年、空席になっていました総代を新たに秋山 弘様(新宿区・七十八歳)にお願いいたしますことになり、川内八重子様・永田武子様・金城明子様の四人態勢となりましたことをご報告いたします。

お盆は「盂蘭盆会」といい「逆さにつるされたような苦しみ」という意味の梵語「ウランバナ」を漢字に音訳したものです。

お釈迦様のお弟子である目連尊者が、餓鬼道(むさぼりの世界)で、逆さにつるされたような苦しみを受けている母親を救おうと、お釈迦様に教えを受けたことがお盆の始まりとされています。

浄土真宗では、先立って行かれた大切な方々をしのびつつ、この私自身が真実のみ教えに出遇わせていただく大

われもひかりのうちにあり

切な仏縁です。

お浄土へ往生された方々は仏さまとして、いつでもどこでも私たちを見守り、阿弥陀様のみ教えに包まれていることに気付いてほしいと願っています。お盆を通して命の尊さを学んでいきましょう。



誓願寺住職 古賀尚之

浄土真宗本願寺派 誓願寺

〒171-0052 東京都豊島区南長崎1-3-8

【電話】03-3950-7828 【ホームページ】<http://www.seiganji-tokyo.jp/>



如来のおはからい

誓願寺初代住職 故 岡本泰雄

「仏心というは大慈悲これなり」
これは有名な観無量寿経の中にある
お言葉です。

仏様の心というのは、何か特別な
ものがあるような気がしてみたり、
それをどうすれば自分の心にいた
けるかと思ったりしますが、そんな
ものじゃないんですね。

大慈悲の大という字は絶対という
意味です。はかることのできない大
きなものを「大」というのです。

如来様のお慈悲というのははかり
しれない、はかりしれないお慈悲な
のに、こういうふうに思ったら救っ
てもらえるのじゃないか、守っても
らえるのじゃないかと、自分の思い
で仏様の心を推し量ったりする場合
があります。そんなものは役に立た
ないのであります。

お慈悲は絶対である。どうか
ら、こうだからではなくて、どうし

ても私を離さんと抱き続けていて下
さるお慈悲が如来のお慈悲であると
いうことを「仏心は大慈悲これな
り」といつておられる。

今日の御法座にも沢山のお母様方
がいらっしゃいますが、お子さまの
ことを思われるときに、愛情がどん
なものであるかなど考えることはな
いと思います。子供については、何
もかもなげうって愛さずにはおれな
いのが、お母さまのころではない
でしょうか。人から笑われるような
ことでも、この子のためにはせずに
おれないのが母親ではないかと思
います。

普段はちゃんとした人だけれど
も、子供に関しては本当に馬鹿みた
いになっている姿を見ることがあり
ます、あれが母親の心でしょうね。
他の事では身づくろいをして自分を
綺麗に見せるけれども、子供に関し

ては何もかもなげうってその子を愛
さずにはおれない、これが母親の心
というべきではないかと思えます。

可愛がらずにはおれない、愛さず
にはおれない、これが親心ですね。

この気持ちを思っていたくと如来
のお慈悲が少しでもわかっていた
けるんじゃないでしょうか。

お聖教をいただいてみると如来さ
まのお慈悲が骨髓、骨のしんまでき
みついていて下さる、人のことでは
ありません、お互いみんな一人一人
そうなんです。今そうしているその
まんま、如来のお慈悲はその骨髓に
通っていてくださる。離そうとして
も離れることは出来ない。捨てよう
としても捨てられない。それはちょ
うど炭に火がおこっているようなも
ので、火が付いてしまったらどうし
ようもできない、そういうように如
来の大慈悲が私の身体にしみついて
いて下さるんだ、そういう働きをし
ていて下さるのが、大慈悲心であり
ます。

絶大なる如来のお慈悲が私の上に
働いて下さる、と頂戴させていた
きますと、どうしようか、こうしよ

うかは用事がなくなります。向こう
から一生懸命になって私をつつんで
いて下さるのですから、それにおま
かせして、抱かれておることを味わ
いながら今日を生かしていただくよ
りほかにないと思います。

そういただくと、本当にどうしよ
う、こうしようではなかった、常に
如来のおはからいの中にあつたとい
うことを喜ばしていただくよりほか
にはないわけであります。

だから実際のことになってきます
と、ただひたすらに念仏申して、南
無阿弥陀仏・南無阿弥陀仏、有難う
ございますと、思い出しては念仏を
もうさせて頂くことであります。み
名をとなえる、親のみ名をとなえ
る、如来のみ名をとなえる、南無
阿弥陀仏、本当にそうだな私がこう
しておるまんま、しみとおっていて
くださるお慈悲であつたかと、そう
するといつ何時この人生をさよなら
するときに来ても抱かれたまま行く
世界はお浄土よりほかにはないわけ
でありますから、そこに安心させて
いただく、今日の日常が念仏の生活
と言われるものであります。 合掌

副住職
法話

古賀明德

花火におもうこと



今年も7月！暑い夏がやってきます。毎年7月になると私は友人と一緒に花火を見に行きます。

皆さんは花火がどうして夏に上がるかご存知でしょうか？花火の由来や始まりを調べて見たところ、興味深いことを知りました。打ち上げ花火の始まりは江戸時代の1733年、一番最初に上げられたのは東京の隅田川だそうです。しかも、仏教に由来があったとは。

当時、飢饉や流行り病で多くの方々がいのちを終えられた、それを供養するために上げられるようになったそうです。お盆のこの時期にこの世界で命を終えられた方の供養として上げられていたのが、もともと花火の始まりらしいです。

浄土真宗では供養というものはありません。なぜなら供養せずとも、すでに阿弥陀様が大切な方を、悟りをひらかれた仏様にしてくださっているからです。

ほんの一瞬の間、大きな大きな暗闇の中に綺麗に咲く花火。「もう少し見ていたい。」と思っても、その輝きを留めておくことはできません。けれども私たちが花火を美しいと感じるのは、永遠に残るからではありません。一瞬で消えていくからこそ、その一瞬を美しく思えるのです。

一瞬だから尊い、一瞬だから綺麗に思える。人のいのちも同じなのかなと思います。

阿弥陀様がご覧になられて救おうとされたこのいのちは、暗闇（様々な悩み苦しみに溢れたこの世界）に一瞬でも美しく咲きたいのちであるから、尊いと思われたのです。

また花火は消えていくけれど、その感動は私たちの心にしっかりと残ります。仏様に成られていかれた方々も同じなのかなと思います。姿は見えなくても、その方からいただいた言葉や優しさは、私たちの心にしっかりと残る。だから私たちは花火を見ている瞬間、その方と出会うことのできた瞬間を、いつまでも嬉しく思うことができるのでしょね。

普通の毎日の中で私たちはなかなか誰かと一緒に過ごすことのできる時間を、嬉しい・有り難いと思うことはできません。つい当たり前のように考えてしまう。でも、私たちのこのいのちが花火の様に一瞬だけこの世界に咲くいのちであると思えるならば、今周りの方と出会わせて頂けたこの瞬間を、もっと大切に思うことができるのかもしれません。もっと共に入れるこの時間を大切に過ごそうと考えられるのかもしれません。

今年は隅田川の花火大会に行って、先立って仏様に成られた大切な方々、今出会わせて頂いている方々との尊いご縁を改めて考えてみようかと思います。

ご法座等 のご案内

どなたでもご自由に
ご参加いただけます。
参加費は無料です。

7月

7・12
(日)

■午前十時～

孟蘭盆会

【柳父一導師（広島）】

■正午～

医療相談

【佐藤公彦医師】

7・19
(日)

■午前十時～

なかよしクラブ

(乳幼児から小学生までとその保護者)

7・26
(日)

■午後一時～

定例法座・祥月命日合同法要

【米田順昭師（広島）】

8月

8・9
(日)

■午前十時～

孟蘭盆会

【上野隆平師（京都）】

8・16
(日)

■午前十時～

なかよしクラブ

(乳幼児から小学生までとその保護者)

8・23
(日)

■午後一時～

定例法座・祥月命日合同法要

【本多響流師（熊本）】



編集後記



令和八年もはや半分過ぎました。本当に月日の過ぎ去る事なんと速いことでしょう。まずは課題を一つ一つ処理していきましょう。

・宗門の五ヶ年中期計画が策定されました。「ともにお念仏申す身となる」をスローガンに、研修や教化の施策が推進されます。当面「全国の住職総参拝」が実施。一泊二日の研修会に参加します。

・マスク生活を続けるかどうか考えています。人込みの中では必要だと思いますが……

・梅雨明けも間近です。猛暑が予想されていますが、熱中症には十分ご注意ください。水分補給とエアコンの利用をためらわないことです。

